

2016年1月4日

SCSK株式会社

代表取締役会長 中井戸 信英

2016年 年頭挨拶(要旨)

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年のわが社にとっての一番の出来事は、外部の調査で人を活かす会社として2年連続ナンバーワンになったということでした。働き方改革への継続的な取り組みに加え、「健康わくわくマイレージ」や裁量労働制の適用拡大など、制度の見直しという努力を続けた上で増収増益を成し遂げたことが認められたことは、喜ばしい限りです。

また、平成27年度「情報化促進貢献個人等表彰」において「経済産業大臣賞(企業等部門)」を受賞した際には、「同業他社からも参考にされるマネジメントの成功例として模範となる役割を果たし、IT業界における働き方改革の先駆者」とのお褒めの言葉もいただきました。また、内閣府による平成27年度「女性が輝く先進企業表彰」において「内閣総理大臣表彰」を安倍総理から直接授与いただくという栄誉にもあずかりました。さらに、日本を代表する公益企業の経営会議で講演を行ったり、日本経済新聞社主催のシンポジウムで基調講演を引き受けたりと、わが社に対する社会的な評価は、一流企業に近づきつつあります。

今年の第一目標は、「健康経営」を軸とした活動を皆で力を合わせて進め、人を活かす会社として引き続きトップ評価を得ることです。一般的に、企業では業績の成長と予算の達成が最優先ですが、わが社が業績を差し置いてあえて人を活かす会社としての評価を第一目標に掲げるのは、働き方改革の継続が業績の拡大にもつながると確信しているからです。

今年是新中期経営計画の初年度です。さらなる業績拡大へ加速度をつけていくとともに、「一流企業」への道のりの基礎固めの一年となるよう、共に頑張っけてゆきたいと思えます。

一方で、業務品質については依然として「一流」への道なかばと言わざるを得ません。業務品質を向上させるためには、人間系のマネジメントとシステムティックなマネジメントの両輪がしっかりと組み合わさって機能することが必要です。人間系のマネジメントとは、マネジャーが案件のリスクをどう捉え、案件の問題発生への兆しにセンサーをどう働かせ、どうアクションするのかということです。一方、システムティックなマネジメントとは、人間系のマネジメントで網羅できない部分をあらかじめ見極め、定められた開発プロセスを順守することで補完するという考え方です。このふたつのマネジメントが両輪で機能すれば、これまでとは次元の違うレベルでの高い業務品質を提供できる真の「一流企業」になれると確信しています。

さて、一昨年暮れに打ち上げられた「はやぶさ2」は、1年かけて太陽を1周回った後、新しい目標である惑星「Ryugu(竜宮)」に向かい飛び出していきました。約2年後の2018年に惑星「Ryugu」に到着後、約1年半、現地での観察や物質の採取などさまざまな活動を行った後、2020年にそれらの輝かしいデータや成果とともに地球

に帰還する計画になっています。「はやぶさ2」が地球に戻る予定の、そして我々の新中期経営計画の最終年度でもあるこの2020年には、名実ともにIT業界のトップベンダーとしての地位を確立するべく、ダッシュをかけていきたいと思っています。

皆さんは一流となる素養を十分に備えています。自信を持ち「夢ある未来」に向かって、皆で力を合わせ一緒に前進してゆこうではありませんか。

※これは、2016年1月4日にSCSK役職員向けに行われた年頭挨拶の要旨です。

本件に関するお問い合わせ先

SCSK株式会社 広報部

TEL:03-5166-1150